



“知床の森林”ってどんな森？ ～胸おどらせて森林浴・自然観察～

第26回森林レク・in知床『初夏の森で森林浴・自然観察』は、6月18日（日）自然観察教育林で行われました。

この日の参加者は23名、そのほとんどが初参加ということで、みなさん期待に胸を膨らませている様子。センターで準備した素朴な杖を手に、森の中に入りました。

今日は曇り、肌寒い気温ですが森歩きには丁度いいくらい。所どころでエゾアカガエル・エゾハルセミ・アカゲラの声は聞こえました。

この自然観察教育林は、知床の自然が凝縮された形で存在しています。水の枯れた沢、出口のないポンホロ沼、見晴らしの利く尾根、ホロベツ川の溪流と数々の滝。さらに多くの樹種と森林植物が地形や傾斜方向によって生え分け、時には群落を形作っています。特に森林は、トドマツと共にミズナラ・ハリギリ（センノキ）・オヒョウニレ・イタヤカエデ・カツラ等の巨木が多く存在しています。森を下り、ロープを伝ってホロベツの滝のそばに寄り、溪流沿いにけもの道（シカ道）を歩きクマガラの滝へ。ここの河原が昼食地点です。

午後からのコースにはサルメンエビネ・コウライ（エゾ）テンナンショウ・オドリコソウ・クルマバソウの花が見られ、時間をかけて観察しました。

択伐された林内歩きを最後に、今朝の出発地点に向いました。全行程8キロ余、4時間の森林浴・自然観察でした。みなさん最後まで元気で、コースを周回できたことで満足そうでした。「また来たい」と言っていた方が2・3人おりました。

今回の記録

- *第26回「森林レクリエーション・in知床」『初夏の森で森林浴・自然観察』
- *6月18日（日）実施。知床森林センター主催。於自然観察教育林。コース延長約8キロ余。
- *総参加者23名。女子16名・男子7名。北見市19名・網走市2名・端野町斜里町各1名。夫婦4組・孫さん連れ1組。年齢構成8才～73才。

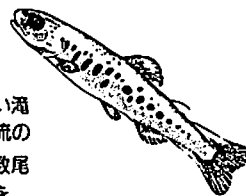
Oh!感動

一瞬のきらめき

サケ・マスも通らない滝の多い知床の某川の上流の流れでオシロコマを数尾見た。川面に舞う小虫を、一瞬のきらめきを見せて、空中で捕食していた。

知床半島に、この魚が棲息しているのは知っていたが、この川で実際に見たのは初めてである。この魚はほとんど陸封型である。川に棲み縞を維持できるのは、餌の量と魚体の大きさの、バランスがとれているからに違いない。海に遡られ、急流とわずかの瀬という限られたテリトリーの中で、縞を堅持しているのは驚きである。とても遅いという気持ちにはならない。

（オシロコマ サケ科イワナ属）

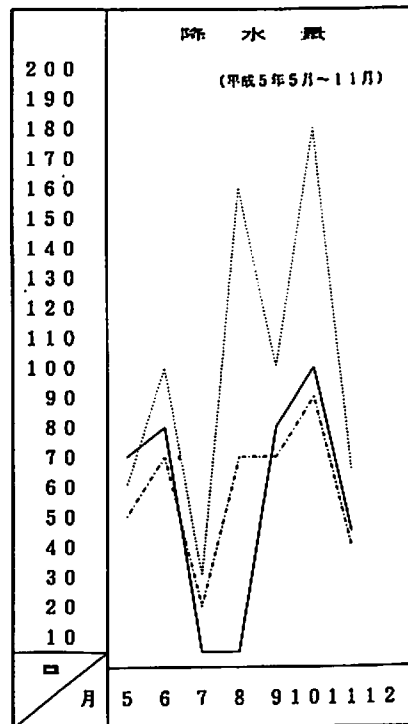


斜里町
植樹祭

ちびっ子たちががんばる

5月13日土曜
日、斜里町の植樹祭が、海別岳山麓で行われました。主催は町と清里営林署で、知床森林センターも参加しました。

地元小学校のちびっ子たちも大勢参加して、賑やかに声を上げながら、真剣に鋸をふるい木を植えていました。今回は好天に恵まれアカエゾマツ800本、町の木ミズナラ800本を植え、「森林資源再生の森」をめざす植樹行事を終えました。



データは語る … [②降水量] ～ウトロ地区は雨が多い～

今回は降水量についてデータを見てみる。

3カ所の気象観測地点は前回と同じである。知床半島は12月から4月まではまれに雨が降るが、やはり雪の季節である。センターでは降水量の測定は、5月から11月まで測定している。そのためアメダス観測値もこれに合わせた。

以下左図を眺めてみる。

- 1 平成5年は雨の多い年であった。
- 2 一見してウトロの雨量が突出して多い。これは、一般的な傾向として、海岸部は内陸部より雨量が多いこと、平成5年のウトロでは他の地方と比べ、多量の雨が2回降っていることなどが考えられる。
- 3 センター観測では、8月の雨量がきわめて少ない。計器はわずかの雨量も記録されていることから、両アメダス地点の中間の山地にあつて、大雨を免れたものと思われる。
- 4 アメダス斜里値については、ウトロより雨量は少ないが、ほぼ平行線を示している。

前回の気温についてもいえるが、いずれも平成5年の単年比較であるため、その年の気候の特徴が出てしまう。積年データを見ることで、地域気象の一般的傾向をつかんでいきたい。

各種のセンター業務、とりわけ普及業務においては気象情報は必要である。とくに知床半島の中央部に位置するウトロのアメダステータは今後とも活用していきたい。

— 清里観測所（センター） 370mm
 宇登呂観測所（アメダス） 700mm
 - - - 斜里観測所（アメダス） 410mm